

会 告

去る一月二十八日に開催された常務理事会において、次の案件が決定されました。

一、日本学術会議第一四期会員の候補者の選定

竺沙雅章氏

浅香 正氏

現理事の右記二氏を候補者として選定すること。

なお、会員の候補者の資格認定は三月二〇日までに通知がくることになっています。その後、五月中旬から六月上旬までの間に推薦人会議が開かれ、会員決定が行われることになっています。

日本学術会議だより

— No. 7 —

昭和六年二月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は、去る一〇月二日から二三日まで第一〇三回総会（第一三期・六回目）を開催しました。今回の「日本学術会議だより」では、今総会で採択された報告を中心として、同総会の議事内容をお知らせします。本会議の第一三期も、余すところ九か月となり、各委員会は、期の活動の取りまとめに向けて一層活発に審議を進めています。

◇総会報告

総会第一日目の午前中には、会長からの経過報告、各部・各委員会報告に続き、報告・対外報告等四つが提案され、そのうち二件が可決された。そのほかの二件に関しては、同日午後各部会で審議が行われ、第二日目の午前中に一件が、第三日目の午前中に一件が可決された。

なお、総会前日の二〇日午前には連合部会が開催され、これらの案件の予備的な説明、質疑が行われた。また第二日目午後には

は「食糧生産と環境」についての自由討議（詳細別掲）が、第三日目の午後には常置委員会、特別委員会が開催された。

第一日目午前。まず、利根川進氏のノーベル生理学・医学賞受賞に対し日本学術会議第一〇三回総会の名において祝電を呈することが提案され、全員一致で可決された。次に日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規の一部改正についての提案がなされ、これも賛成多数で可決された。この改正は、第一四期の当初三か月間における、国際学会への研連委員の代表派遣について、必要な経過措置を講ずるものである。

続いて、高齢化社会特別委員会提案の「日本高齢社会総合研究センター（仮称）の設立について」（勧告）の提案説明と質疑応答が行われた。さらに、医療技術と人間の生命特別委員会報告「脳死に関する見解」を「日本学術会議の運営の細則に関する内規」に定める対外「報告」として認めることに関する提案が行われた。これは同特別委員会がその発足以来二年間にわたって審議を重ねてきたものであり、前回四月の総会では討論の過程でさらに検討する必